

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（英語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 14 (61%) 2. 9 (39%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 15 (65%) 2. 8 (39%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 11 (48%) 2. 12 (52%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 15 (65%) 2. 8 (35%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 10 (43%) 2. 13 (57%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 16 (70%) 2. 7 (30%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 13 (57%) 2. 10 (43%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 10 (43%) 2. (%) 3. (%) 4. (%) 未回答 (%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. (%) 2. (%) 3. (%) 4. (%) 未回答 (%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. (%) 2. (%) 3. (%) 4. (%) 未回答 (%)

B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： (%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： (%)
- 3.他大学のFD活動の視察： (%)
- 4.その他： (%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： (%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： (%)
- 3.他大学のFD活動の視察： (%)
- 4.その他： (%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 1 3 クラス (順不同)

- 1 今年の学生は、優秀な学生さんが多くペアワークも一生懸命取り組んでいました。
- 2 昨年度の教材はやや平易過ぎると学生からのコメントがあったので、今年度は難易度の高い教材に変更した。
指導方法は同じである。
- 3 学生の評価に従って難易度の高い教材を採用した。
- 4 学生の意見に従い、教材の難易度が高い教材を採用した。
- 5 学生の意見に従い、難易度の高い教材を採用した。
- 6 今回も、WebClassに翌週学習する単語リスト、単語の練習動画、ワークシート、音声ファイルをユニットとして一週間上げることで、学生が事前に学習できるようにしました。毎回、マイクを回しただけ学生が発表できるようにしています
- 7 前回同様、学生が自宅で手軽に学習できるよう、毎回一週間分の単語リスト、単語練習動画、音声ファイル、ワークシートを今週のユニットとして WebClass に UP している。
- 8 昨年度に引き続き、授業冒頭でのスモールトーク活動を充実させることができた。次年度以降は、カリキュラム変更に伴って教科書を選びなおし、音声言語重視の指導が可能な教科書を選定し、受講生が将来小学校英語教育を自信を持って取り組めるようにするための授業づくりに取り組んでいきたい。
- 9 昨年度に引き続き、音読中心の学習活動及びリテリング活動を主軸とした授業を展開することで、音声言語として英語を活用する知識・技能の育成を促すことができたように思われる。
昨年度より、音読ポイントを言語化したり、記号化したりする学習機会を充実させ、受講生同士での音読の相互評価の機会も担保することで、授業自体はより良く改善できたように思われる。
- 10 学生への積極的な課題作成を促した。
- 11 課外提出を積極的に促した。
- 12 私は、新しいトピックを紹介する前に、生徒たちがどの程度知っているかを確認するために、もっと言葉を生み出すように頼んだ。
- 13 彼らの1年目の病歴の知識を理解し、基本的なリサーチ、適切なフォローアップの質問、共感を示すこと、説明することに発展させた。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（英語）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 12 クラス（順不同）

- 1 今回も、WebClassに翌週学習する単語リスト、単語の練習動画、ワークシート、音声ファイルをユニットとして一週間上げることで、学生が事前に学習できるようにしました。毎回、マイクを回しただけ学生が発表できるようにしています。
- 2 コロナやインフルエンザがぶり返した時期があり、グループワークができない授業があった。
- 3 グループワークを実施していたが、途中からコロナ感染症やインフルエンザ罹患者が増えてきたので、グループワークができなくなった。
- 4 グループワークを実施してきたが、途中からコロナ感染症やインフルエンザが流行したため、後半はグループワークを控えた。
- 5 グループワークを実施していたが、コロナ感染症やインフルエンザが流行りだしたため途中からグループワークは控えた。
- 6 クラス中は、できるだけ発話できるよう、ペアワークを多く取り入れています。
- 7 前回同様、学生が自宅で手軽に学習できるよう、毎回一週間分の単語リスト、単語練習動画、音声ファイル、意味の確認動画、ワークシートを今週のユニットとしてWebClassにUPしている。意味の確認動画は、テキストの日本語の音声の後に学生が英文を読めるよう、また英語の後に日本語で訳出する動画です。
- 8 次年度からは、教養科目カリキュラムの変更に伴い、本英語科目も変更となるため、4技能統合型かつ音声言語重視の指導が可能な教科書を選定して授業を実施できるように準備を進めていきたい。
- 9 次年度から教養科目のカリキュラム変更があるものの、英語科目に関しては音読とリテリングを中心とする授業を維持し、音声言語としての英語の活用に対する受講生の苦手意識を克服し、英語らしく英語を話すことの楽しさと基礎技能を向上させられるように工夫していきたい。
- 10 今回も、WebClassに翌週学習する単語リスト、単語の練習動画、ワークシート、音声ファイルをユニットとして一週間上げることで、学生が事前に学習できるようにしました。毎回、マイクを回しただけ学生が発表できるようにしています。また、各週ごとに英語のエッセイを書いてきていただき、授業開始時にペアで発表し合い、フォローアップクエスチョンをするようにしました。
- 11 機会が与えられれば、学生たちは例外なく英語でのコミュニケーションができることを改めて確信できた。より質の高いコミュニケーションをどう実現するかが残された課題だ。
- 12 このクラスには満足している。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 1 クラス

- 1 2023年度の客員教員活動報告のご依頼 [Inquiring about the Fiscal Activities as a Visiting Faculty Member.html](#)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（英語）

C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 22 (96%) 2.いいえ : 0 (0%) 未回答 : 1 (4%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 18 (82%)
- 2.読んで理解する : 17 (77%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 14 (64%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 13 (59%)
- 5.討論する : 3 (14%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 7 (32%)
- 7.その他 : 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 10 クラス (順不同)

1 Text の対話部分は、いつもペアワークで時間を決めできるだけ多くロールプレイできるようにしました。

授業終了前に、WebClass の CHAT に、覚えたい文を書き込んでいただき、みんなで一斉に読み合った。

2 特になし

3 特になし

4 特になし

5 特になし

6 クラス終了時に、WebClass 上に CHAT を開き、覚えたい英語表現をそれぞれの学生が投稿し、その後みんなで声を出して読むようにしています。また、短い対話文はペアーで覚えていただき、発表させています。

7 パラレルリーディングやシャドウイングを毎回実施し、英語で話すことに慣れるようにしています。クラス終了時に、WebClass 上に CHAT を開き、覚えたい英語表現をそれぞれの学生が投稿し、その後みんなで声を出して読むようにしています。また、短い対話文はペアーで覚えていただき、発表させています。

8 テレビやスマートフォン、カップラーメン等の開発史を題材とする英語での口述発表資料 (パワーポイントによる) の作成課題 (発表原稿の作成を含む) を課すことで、スピーキングとライティングを統合的に育成できるように配慮した。

9 教科書の読解文の音読をペア毎に相互評価する学習活動に加えて、教科書に含まれる読解文を自分の英語で言い直し、パートナーに伝えて、メッセージが伝わるか、英文法や語法のミスが無いかを相互評価する学習活動を主軸とした。

10 毎回、マイクを回しできるだけ学生が発表できるようにしています。また、各週ごとに英語のエッセイを書いてきていただき、授業開始時にペアーで発表し合い、フォローアップクエスチョンをするようにしました。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：5 (22%) 2.いいえ：17 (74%) 未回答：1 (4%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：5 (100%) 2.6回～10回：0 (0%) 3.11回～15回：0 (0%)
未回答：(%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：4 (80%) 2.政治・経済・産業：4 (80%)
3.自然環境・フィールド体験：4 (80%) 4.その他：1 (20%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 5 クラス（順不同）

- 1 300語内で地元を紹介する文を書いてもらいました。
- 2 お友達に地域の紹介をする文章を書いていただいています。
- 3 お友達に、自分の住んでいる地域を紹介する文章を書かせています。
- 4 My Essay は、自由な題材で書くので、地域のことを書いている学生もいました。
- 5 私は母子手帳を使っている。

E(Q23～Q24) : 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：1 (4%) 2.10%以内：2 (9%) 3.10%～20%：0 (0%)
4.21%～30%：0 (0%) 5.31%～40%：0 (0%) 6.41%～50%：2 (9%)
7.51%～60%：1 (4%) 8.61%～70%：3 (13%) 9.71%～80%：2 (9%)
10.81%～90%：0 (0%) 11.91%～100%：12 (52%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：9 (41%) 2.双方向（対話・討論）：17 (77%)
3.グループワーク：17 (77%) 4.フィールド型：0 (0%) 5.メディア活用：11 (50%)
6.TA活用：0 (0%) 7.その他：1 (5%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

- 1.授業を英語のみで行っている：6 (26%)
- 2.授業の一部(重要なポイントの説明等)を英語で行っている：12 (52%)
- 3.英語のみで板書している：8 (35%)
- 4.重要な語句(専門用語)あるいは説明だけを英語(一部英語併記)で板書している：11 (48%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：12 (52%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：13 (57%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：10 (43%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：7 (30%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語(一部英語併記)を使用している：18 (78%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：8 (35%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（保健 体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2 (67%) 2. 1 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 3 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 3 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 0 (0%) 2. 3 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 0 (0%) 2. 3 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 1 (33%) 2. 2 (67%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 1 (33%) 2. 2 (67%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 0 (0%) 2. 0 (0%) 3. 1 (33%) 4. 2 (67%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 1 (33%) 2. 2 (67%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 2 (67%) 2. 1 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 3 (100%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 3 (100%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 2 (67%)
- 4.その他 : 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 3 (100%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 3 (100%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 2 (67%)
- 4.その他 : 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答 : 3 クラス (順不同)

- 1 活動時間を十分に確保できるように、滞りなく展開するために、説明の時間を端的にするなどマネジメントを工夫した。
- 2 学生の行動選択の機会を増やし、より主体的な学習活動となるように試みた。
- 3 活動時間を十分に確保できるように、滞りなく展開するために、説明の時間を端的にするなどマネジメントを工夫した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答 : 1 クラス (順不同)

- 1 学生の主体的な判断・行動が増え、活動量も回を追うにつれて増えていった一方、技術向上、あるいは目標達成にかかる思考法、つまり、課題解決に向けての話し合いや工夫し合う力を十分に育めたかという課題が残ったと考えている。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出 : 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：3 (100%) 2.いいえ：0 (0%) 未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：1 (33%)
- 2.読んで理解する：0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：2 (67%)
- 5.討論する：1 (33%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：0 (0%)
- 7.その他：3 (100%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：__クラス（順不同）

1 テニスのグループ活動の際、いくつかの練習の目的と方法を示した参考資料を渡し、グループ内で活動を選択して取り組むようにした。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：0 (0%) 2.いいえ：3 (100%) 未回答：0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：0 (0%) 2.6回～10回：0 (0%) 3.11回～15回：0 (0%)
未回答：0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化：0 (0%) 2.政治・経済・産業：0 (0%)
3.自然環境・フィールド体験：0 (0%) 4.その他：0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：__0__クラス（順不同）

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：0（0%） 2.10%以内：0（0%） 3.10%～20%：0（0%）
4.21%～30%：0（0%） 5.31%～40%：0（0%） 6.41%～50%：0（0%）
7.51%～60%：0（0%） 8.61%～70%：0（0%） 9.71%～80%：0（0%）
10.81%～90%：1（33%） 11.91%～100%：2（67%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：2（67%） 2.双方向（対話・討論）：2（67%）
3.グループワーク：1（33%） 4.フィールド型：0（0%） 5.メディア活用：0（0%）
6.TA活用：0（0%） 7.その他：0（0%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている：0（0%）
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：0（0%）
3.英語のみで板書している：0（0%）
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：0（0%）
5.英語のみの教材・資料を使用している：0（0%）
6.一部英語併記の教材・資料を使用している：0（0%）
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（ 専 門 基 礎 ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 1 (50%) 2. 1 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 1 (50%) 2. 1 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 0 (0%) 2. 2 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 1 (50%) 2. 1 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 0 (0%) 2. 2 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 1 (50%) 2. 1 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 0 (0%) 2. 2 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 0 (0%) 2. 2 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 1 (50%) 2. 1 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：0 (0%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：2 (100%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 0 クラス (順不同)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 1 クラス (順不同)

1 今回、この科目については急遽担当することになり、多くの先生方の協力の下授業を実施することができた。来年度以降のこの講義の在り方をもう一度点検する必要がある。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

- 1.はい：1 (50%)
- 2.いいえ：1 (50%)
- 未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：0 (0%)
- 2.読んで理解する：0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：1 (100%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：1 (100%)
- 5.討論する：0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：1 (100%)
- 7.その他：0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（専門基礎）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 1 クラス（順不同）

1 受講者数はかなり多いが、全員 1 分間のスピーチを 1 度は経験してもらった。

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：1 （50%） 2.いいえ：1 （50%） 未回答：0 （0%）

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：0 （0%） 2.6回～10回：1 （100%） 3.11回～15回：0 （0%）
未回答：0 （0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：0 （0%） 2.政治・経済・産業：0 （0%）
3.自然環境・フィールド体験：0 （0%） 4.その他：0 （0%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス（順不同）

E（Q23～Q24）：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：0 （0%） 2.10%以内：0 （0%） 3.10%～20%：0 （0%）
4.21%～30%：0 （0%） 5.31%～40%：0 （0%） 6.41%～50%：1 （50%）
7.51%～60%：0 （0%） 8.61%～70%：0 （0%） 9.71%～80%：0 （0%）
10.81%～90%：0 （0%） 11.91%～100%：1 （50%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：0 （0%） 2.双方向（対話・討論）：1 （50%）
3.グループワーク：0 （0%） 4.フィールド型：0 （0%） 5.メディア活用：1 （50%）
6.TA 活用：0 （0%） 7.その他：0 （0%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている：0（0%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：0（0%）
- 3.英語のみで板書している：0（0%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：0（0%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：0（0%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：1（50%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（専門教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 36 (90%) 2. 4 (10%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 32 (80%) 2. 8 (20%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 34 (85%) 2. 6 (15%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 31 (77%) 2. 7 (18%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 2 (5%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 30 (75%) 2. 10 (25%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 33 (83%) 2. 7 (18%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 31 (77%) 2. 7 (18%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 21 (53%) 2. 16 (40%) 3. 3 (7%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 24 (60%) 2. 15 (38%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (2%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 30 (75%) 2. 10 (25%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 5 (13%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 30 (75%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 1 (3%)
- 4.その他 : 2 (5%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 11 (28%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 28 (70%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 3 (8%)
- 4.その他 : 3 (8%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答 : 13 クラス (順不同)

- 1 この科目はオムニバス科目で、学生からの授業評価は全体についての評価となるので、授業評価をもとにした改善をはかるのは難しいため、授業評価をもとにした改善は行っていない。
- 2 表現を分かりやすくした。
- 3 より具体的な教員活動の事例を盛り込むようにした。
- 4 Better presentation slides.
- 5 学生からの説明時間を多くもうけた。
- 6 パワーポイントで作成した教材の見直し
- 7 課題の内容を工夫した。
- 8 昨年は一方的な授業内容であったため、学生の理解度を把握することが困難だったため、今年度は受講生とのコミュニケーションを十分に取しながら課題を設けるなどして授業内容の理解度の確認を図った。
- 9 前へ出て、発表する機会（プレゼンテーション含む）を増やした。
- 10 担当回数が減った分、よりポイントを絞って展開した。
- 11 椎葉村プロジェクト学習についての、よりわかりやすい説明を心がけた。
- 12 当科目はオムニバス科目であり、昨年度より担当授業回数が一回分減ってしまったため、英文法の基礎（英語の形式・意味・情報構造上の機能）を身につけられるように内容を調整して実施した。授業評価に関する課題としては、昨年と同様に、他の受講生の英文法への気付きを促すための英文法コラムの作成を課した。
- 13 担当時間の削減に伴い、質を落とさないように注意深く授業内容を精選した。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（専門教育入門セミナー）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 5 クラス（順不同）

- 1 砕けた表現を用いて、興味を引き、かつ、眠らせないために動作（海洋ベントスの動き）をまねながら講義をした。
- 2 自分の授業の評価できる点は、問 22 と関連するが、「高千穂郷・椎葉山地域」の 1 泊 2 日の椎葉村研修の実施である。学生の自己負担も 2 万円弱もあり、この研修を始めた当初は、なぜ、椎葉村まで行かねばならないのかという疑問を持つ学生もいたが、研修後は焼畑文化を継承することの意義を意識していた。ここ数年は、恒例となったために、学生は楽しみにしているようになった。
- 3 オムニバスの担当授業回が少ないため、授業評価課題の英文法コラムの教師によるモデリングをより充実化させることで、Word 文書の使い方を含めて、より質の高いコラムを作成できるように工夫を講じていきたい。
- 4 5 名の教員で担当し、学生に各教員の特色ある授業を学生に提供できたのではないかと思います。
- 5 教員になることへの意欲を失わないため、専門書の一部を読ませ、学生同士の話し合いやこちらの解説も適宜行いながら、専門知識の習得を行った。受講者の人数が多かったため、学生の発表が短くなってしまい、個々に対するフィードバックも短くなってしまった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：31 (78%) 2.いいえ：8 (20%) 未回答：1 (2%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：16 (52%)
- 2.読んで理解する：9 (29%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：16 (52%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：15 (48%)
- 5.討論する：11 (35%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：18 (58%)
- 7.その他：1 (3%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（専門教育入門セミナー）

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 11 クラス（順不同）

- 1 学生との対話を通して講義を進める講義担当回が設定されている。
- 2 テーマを設定してディベートをおこなった
- 3 Preparation of a poster presentation.
- 4 小中学生を相手に話をする。
- 5 自分で調べたことをスライドを使って丁寧に説明する練習や、そのプレゼンテーションに対する質疑応答もさせた。
- 6 話し方・プレゼンテーションシートの作り方のポイントを説明し、実際に組み合わせた後で自己評価をすることで、次のプレゼンテーションで課題点を改善して取り組めるようにした。
- 7 グループディスカッションを取り入れ、その際の聞き方、話の広げ方を指導した。
- 8 今年度の学生は、昨年度の学生と比較してコミュニケーション能力が高いが、問 22 と関連して、地域の人びとの交流を通して、異世代間のコミュニケーション能力の育成に努めている。
- 9 英文法コラムの内容・構成を練る際に、受講生同士でブレインストーミングをする機会を設けた。
- 10 ごく短いプレゼンテーションを行った。また、講義で聞いたことと講義資料で読んだことの知識を統合して要約する課題を出した。
- 11 グループワークを実施し、個人の意見を討論出来る場を設けている。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19. 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1. はい : 16 (40%) 2. いいえ : 21 (53%) 未回答 : 3 (8%)

<Q19で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください>

Q20. その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回 : 14 (88%) 2. 6回～10回 : 2 (13%) 3. 11回～15回 : 0 (0%)
未回答 : 0 (0%)

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化 : 4 (25%) 2. 政治・経済・産業 : 8 (50%)
3. 自然環境・フィールド体験 : 6 (38%) 4. その他 : 2 (13%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 3 クラス（順不同）

- 1 基礎教育科目重点経費をいただき、世界農業遺産に認定されている「高千穂郷・椎葉山地域」の生活文化・食文化を体験するための1泊2日の椎葉村研修を行っている。椎葉村で継承されてきた焼畑文化について、その地で、収穫体験や郷土料理作りを、地元の方々と一緒に行うことができる経験は、何事にも代えがたいものである。
- 2 島野浦学園や五ヶ瀬地区などの小規模校へのフィールドワークを行った。
- 3 後半の担任担当の講義で、宮崎県内の企業研究を行いプログラム教員の前で発表させている。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：4（10%） 2.10%以内：1（3%） 3.10%～20%：3（8%）
 4.21%～30%：3（8%） 5.31%～40%：2（5%） 6.41%～50%：2（5%）
 7.51%～60%：4（10%） 8.61%～70%：4（10%） 9.71%～80%：2（5%）
 10.81%～90%：5（13%） 11.91%～100%：9（23%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：23（64%） 2.双方向（対話・討論）：18（50%）
 3.グループワーク：14（39%） 4.フィールド型：6（17%） 5.メディア活用：12（33%）
 6.TA 活用：1（3%） 7.その他：3（8%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている：2（5%）
 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：4（10%）
 3.英語のみで板書している：0（0%）
 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：6（15%）
 5.英語のみの教材・資料を使用している：1（3%）
 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：4（10%）
 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）
 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：1（3%）
 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：2（5%）
 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：1（3%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（現代社会の課題）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 10 (53%) 2. 9 (47%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 9 (47%) 2. 9 (47%) 3. 1 (6%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 9 (47%) 2. 10 (53%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 9 (47%) 2. 8 (42%) 3. 2 (11%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 8 (42%) 2. 11 (58%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 10 (53%) 2. 8 (42%) 3. 1 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 5 (26%) 2. 10 (53%) 3. 3 (16%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (5%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 5 (26%) 2. 10 (53%) 3. 4 (21%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 7 (37%) 2. 11 (58%) 3. 1 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 9 (47%) 2. 9 (47%) 3. 1 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：1 (5%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：13 (68%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：2 (11%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：14 (74%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 7 クラス (順不同)

- 1 グループワークが円滑にできるように工夫をした
- 2 難解な用語をなるべく排除するか、説明を加えながら講義を行った。
- 3 実際の臨床、教育現場の先生方から直接支援方法を聞くことが、大きな学びとなっていたので、その強みを生かすような授業をお願いした。
- 4 学生同士の相互学習と関心を深めるためグループワークにおいて、ワールドカフェ方式を取り入れた。
- 5 フィードバックにおいて、昨年度より具体的な記述内容を求めた。
- 6 今年度新設科目。
- 7 多様な教材を組み合わせて1つの題材を多角的に考察する機会の提供に成功した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答： 8 クラス (順不同)

- 1 グループディスカッションを取り入れて、色々な価値感を共有した
- 2 講義・発表を通して異学部・異コース間での学生の活発な交流がなされている。
- 3 新たな講師を依頼し、視点を変えた学びが可能であった。
- 4 COILによる米国大学との交流を行ったが、準備にもう少し時間をかければより深い交流ができたように思う。
- 5 初めて基礎科目を担当し、他学部の学生に講義を行った。学部学生の講義しかしたことがなかったため、取り扱うテーマ選定や、説明（よりわかりやすい説明や、一つの事柄が他の事柄とどのような関係にあるのか）について来年度はもっと改善・工夫したい。
- 6 全体の流れの中で授業を進めているため、欠席するとその間を埋めることが難しかった部分もある。
それなのに、結構欠席する学生がおり、その点は今後改善する必要がある。
- 7 今年度からの担当であり、かつ初の学士力発展科目（選択科目）で学生の学力レベルの予想がつかず、手探りでの実施となった。
・WebClassの機能を利用し、予習クイズの解答期限は当該講義の開始（毎週木曜8:40）まで、復習クイズの解答期限は講義の翌々日（土曜日午前0時）までに設定し、講義時間外での学習を促した。当然、講義資料は講義前（講義終了後に翌週分の資料をアップロード）し、予復習に利用できるようにしている。
- 8 上記の改善の結果、学生の思考力向上が図られた。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：15 (79%) 2.いいえ：4 (21%) 未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：7 (47%)
- 2.読んで理解する：7 (47%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：10 (67%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：10 (67%)
- 5.討論する：11 (73%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：11 (73%)
- 7.その他：0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 8 クラス（順不同）

- 1 グループワークで資料作成とプレゼンを行った
- 2 子ども・青年に求められる資質能力について課題文献を読み、発表するグループ課題を課した。
- 3 毎回異なるグループでワークを行い、より多様な考え、価値観に触れる機会を創出するよう工夫した。
- 4 グループごとに車いす体験を通じてバリアフリーについて調べ、その効果や課題について相談した。最終的に人前で発表も行ったが、この過程で様々なコミュニケーション能力が育成されたと思います。
- 5 学生同士の相互学習と関心を深めるためグループワークにおいて、ワールドカフェ方式を取り入れた。
- 6 毎回、グループワークを取り入れた。またアイスブレイクの時間も取り、チームの関係性を築く時間を取った。またコンセンサスゲームを取り入れたり、高校生に講義に来ていただき、高校生の取り組んでいる課題に大学生がアドバイスするための時間も設定した。全体として多様なテーマ、多様なメンバーの中でのコミュニケーション機会を設定・提供した。
- 7 毎回、グループで意見交換をする時間を設けている。また、グループ内でのプレゼンや全体でのプレゼンなども取り入れている。
- 8 グループディスカッションの結果をリーダーがクラス全体に対して報告し、他のグループとの比較を可能にする取り組み。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（現代社会の課題）

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：10（53%） 2.いいえ：9（47%） 未回答：0（0%）

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：7（70%） 2.6回～10回：2（20%） 3.11回～15回：1（10%）
未回答：0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：3（30%） 2.政治・経済・産業：4（40%）
3.自然環境・フィールド体験：3（30%） 4.その他：2（20%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：5 クラス（順不同）

1 校内の環境音等を教材とした授業、宮崎をPRする曲の創作

2 宮崎の統計データと全国の統計データを比較した

3 国際協力の視点で地域課題と途上国の課題を照らして相互の協力による双方の課題解決についてグループワークを行った。

4 アミュプラザ宮崎の方にお越しいただき、企業・事業の説明と企業が抱える現実の課題を出して頂き、この解決のために必要となる知識を講義を通じて学び、15回で企業から提示のあった課題にチームに分かれた学生がプランを発表する。

5 進学率等に関する都道府県別統計の紹介。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：2（11%） 2.10%以内：1（5%） 3.10%～20%：2（11%）
4.21%～30%：0（0%） 5.31%～40%：2（11%） 6.41%～50%：0（0%）
7.51%～60%：0（0%） 8.61%～70%：1（5%） 9.71%～80%：1（5%）
10.81%～90%：2（11%） 11.91%～100%：8（42%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：2（12%） 2.双方向（対話・討論）：10（59%）
3.グループワーク：14（82%） 4.フィールド型：1（6%） 5.メディア活用：7（41%）
6.TA活用：0（0%） 7.その他：4（24%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

- 1.授業を英語のみで行っている：0 (0%)
- 2.授業の一部(重要なポイントの説明等)を英語で行っている：0 (0%)
- 3.英語のみで板書している：0 (0%)
- 4.重要な語句(専門用語)あるいは説明だけを英語(一部英語併記)で板書している：4 (21%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：2 (11%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語(一部英語併記)を使用している：0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：1 (5%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（ 学士力発展 ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 41 (84%) 2. 8 (16%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 40 (82%) 2. 8 (16%) 3. 1 (2%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 37 (76%) 2. 11 (22%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (2%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 39 (80%) 2. 10 (20%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 32 (65%) 2. 16 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (2%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 37 (76%) 2. 12 (24%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 36 (73%) 2. 10 (20%) 3. 1 (2%) 4. 2 (4%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 29 (59%) 2. 13 (27%) 3. 5 (10%) 4. 2 (4%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 29 (59%) 2. 19 (39%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (2%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 33 (67%) 2. 16 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：8 (16%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：23 (47%)
- 3.他大学のFD活動の視察：13 (27%)
- 4.その他：12 (24%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：13 (27%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：24 (49%)
- 3.他大学のFD活動の視察：14 (29%)
- 4.その他：11 (22%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 13 クラス（順不同）

- 1 難解な用語を排除するか、説明を加えながら講義を行った。
- 2PPT 等自作教材の内容の更新，受講生の状況に応じた指導内容の変更等.
- 3 昨年の反省点に基づきシラバス内容を見直した。課題ポイントを明示して、設問メモシートを渡し自学を促したうえで期末テストに備えるように指導した。
- 4 活動時間を十分に確保できるように、滞りなく展開するために、説明の時間を端的にするなどマネジメントを工夫した。
- 5 複数の方法を用いて講義を行った。
- 6 知識理解を促す際に、かなり時間の足りなさを学習者及び教員が感じていたため、関連科目（地域デザイン概論 I）のカリキュラムも一部修正しながら、学習を促進させるように配慮した。
- 7 授業のまとめとして、コンセプトマップを活用して、学習内容の振り返りを効果的に行えるように工夫した。また、そのコンセプトマップも活用した、ワークを盛り込むことで地域理解や、自己理解を深められるようにした。
- 8 今学期は受講者数が3名と少なかったため、課題として与えた、ドイツ文訳や練習問題を教室でチェックする際に、学生と応答しながら、理解度を確かめ、また理解を促進する形の対話を行って進めた。
- 9 共感に関する新しいセクションを設けたい
- 10 共感に関する新しいセクションを設けたい
- 11 より徹底して、英語コミュニケーションを機会を学生に与えられたかと思う。
- 12 昨年の反省点に基づきシラバス内容を見直した。本年度は全ての講義を対面方式としたため、週末や夜など自由な時間に受講したい学生ニーズに応えることができなかったが課題ポイントを明示して、設問メモシートを渡し自学を促したうえで期末テストに備えるように指導した。
- 13 学生教員間のコミュニケーションの頻度を高め、授業内容の理解と授業への学生の関心を把握しながら進化した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 14 クラス（順不同）

1 評価点・・・学生が社会に出た後、直面する問題に役立つように「社会保険を補完する生命保険」の内容から、でる限り要点を絞りこみ解説を行った。

反省点・・・「個人情報」に気を使いすぎ、学生を個人名で指名することが少なかったため、講義に「親しみやすさ」が不十分であった懸念がある。

2 講義・発表を通して異学部・異コース間での学生の活発な交流がなされている。

3 新しい内容であったため、学生の状況を見ながら授業を進めた。毎回グループでの意見交換をし、ただ聞くだけの授業にならないように心がけた。

4 評価できる点：授業内容を調整し受講生のペースに合わせ対応した。

反省すべき点：個別にチャレンジ課題を課したが、課題の難易度の調整がやや不十分であった。ヒントの与え方も工夫したい。

5 評価できる点：学生の興味、関心、課題感に応じた学習を設計することができた。（ミニットペーパーや面談の活用）

反省すべき点：少人数の授業のため、細やかな支援が可能だったが、今後、人数の増加が見込まれた際にどのように学習してもらうか再設計すべき点もある（グループ分け、指導方法、評価兵法など）

6 評価できる点：効果的な産学連携を行うようにし、本年度は信用保証協会とともに授業設計を行った。

反省すべき点：都度都度レポート提出等を行っていたが、その内容も適宜フィードバックできるような仕組みづくりを行えばもっと良かった。

7 課題の説明をできる限り、学生の自主性を尊重し、すぐに正解を言ったりせず、学生自身が正解に辿り着くよう勧めた。

8 もっと学生たちと交流を深め、彼らの興味を授業に活かせれば良かったと考える。

9 もっと学生たちと交流を深め、彼らの興味を授業に活かせれば良かったと考える。

10 今回も、WebClassに翌週学習する単語リスト、単語の練習動画、ワークシート、音声ファイルをユニットとして一週間上げることで、学生が事前に学習できるようにしました。毎回、マイクを回しできるだけ学生が発表できるようにしています。

11 機会が与えられれば、学生は確実に英語コミュニケーション能力を身につけることを改めて確信した。

12 学生との対話を心がけて授業をすることで、学生が分かっている・理解している点を確認しながら授業を進めることができました。

13 評価できる点は、講座内で簡単なデモ実験や受講生による作業を取り入れたことで受講生の関心が得られたことである。授業内容を調整し受講生のペースに合わせ対応した。

反省すべき点は、生活の中の物理現象にフォーカスして説明を行ったが、学生間の理解度の差が大きかったため、課題の難易度の調整がやや不十分であった。理解度が高かった学生には個別にチャレンジ課題をもう少し出してあげればよかったと感じている。

14 大学での学習に対して目標を見失っている学生を支援することができている。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 1 クラス

1 2023 年度の客員教員活動報告のご依頼 [Inquiring about the Fiscal Activities as a Visiting Faculty Member.html](#)

C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 36 (73%) 2.いいえ : 12 (24%) 未回答 : 1 (2%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 28 (78%)
- 2.読んで理解する : 24 (67%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 26 (72%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 23 (64%)
- 5.討論する : 11 (31%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 19 (53%)
- 7.その他 : 3 (8%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 15 クラス (順不同)

- 1 グループワークにて、与えられた課題に沿って自分が調査した内容を、相手に分かり易く説明する、等の取り組み。
- 2 共生に関するテーマについての調査・発表を行うグループ課題を課した。
- 3 グループ内で、授業で分かった内容を説明し合う。
- 4 毎回の授業開始時に、復習を兼ねて先週の設問への学生からの回答を示したりしながら対話形式で授業に取り組んだ。
- 5 特にコミュニケーションの育成については、ラウンドロビンを活用しながら、他の学生と意見交換をするということを都度行っていた。そのことで、大きな枠組みでいうとグループコーチングのような視点で授業づくりができたと認識している。
- 6 問 14 と重なるが、学生との対話を通じて正答に辿り着くよう誘導する形で、学生自身に考えさせて、問題や和訳を解かせた。
- 7 授業中に発表、学生たちが各テーマで討論などの活動を行った。
- 8 授業中に発表、学生たちが各テーマで討論などの活動を行った。
- 9 医師と患者の中間評価ロールプレイ
- 10 医師と患者の中間評価ロールプレイ
- 11 クラス中は、できるだけ互いに発話できるよう、ペアワークを多く取り入れています。
- 12 英語以外でのコミュニケーションに妥協しないこと。15回の授業で英語コミュニケーション能力を身に付ける。
- 13 韓国でよくありそうなシチュエーションを想定し、スクリプトや動画を用いて実際話してみたり、会話してみる練習を行った。
- 14 毎回の授業開始時に、復習を兼ねて先週の設問への学生からの回答を示したりしながら対話形式で授業に取り組んだ。
- 15 グループディスカッション、グループワーク等。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 後期（学士力発展）

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：16（33%） 2.いいえ：32（65%） 未回答：1（2%）

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：11（69%） 2.6回～10回：1（6%） 3.11回～15回：3（19%）
未回答：1（6%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：8（50%） 2.政治・経済・産業：9（56%）
3.自然環境・フィールド体験：3（19%） 4.その他：1（6%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：3 クラス（順不同）

- 1 社会保険の健康保険の分野で、宮崎県の協会けんぽに触れましたが、次年度はもっと地域を教材とした内容を意識して増やします。
- 2 西都市から課題を提示いただき、解決策を検討するプログラムである。また、課題だけではなく、地域理解をより深めるために、2度のフィールドワークや市役所職員とのオンラインツールを活用した打ち合わせなどを行った。
- 3 地域が抱える問題とその解決策を約300語で書いていただいています。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：5（10%） 2.10%以内：7（14%） 3.10%～20%：1（2%）
4.21%～30%：1（2%） 5.31%～40%：8（16%） 6.41%～50%：1（2%）
7.51%～60%：3（6%） 8.61%～70%：2（4%） 9.71%～80%：5（10%）
10.81%～90%：3（6%） 11.91%～100%：13（27%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：24（55%） 2.双方向（対話・討論）：31（70%）
3.グループワーク：26（59%） 4.フィールド型：4（9%） 5.メディア活用：23（52%）
6.TA活用：0（0%） 7.その他：4（9%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている：4 （8%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：8 （16%）
- 3.英語のみで板書している：6 （12%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：12 （24%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：6 （12%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：9 （18%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：5 （10%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：5 （10%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：6 （12%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：7 （14%）